

# 第40巻を迎えて

執行役員 技術研究所所長 中村 琢 司

技術情報誌「東洋鋼板」（以下、本誌）は、当社の研究開発の成果や新製品・新技術を紹介する技術論文誌として、1952年の創刊以来、第40巻の発行を迎えることが出来ました。これまでの諸先輩方のご努力に対して心から敬意を表したいと考えます。

当社は、1934年に日本で民間初のぶりきメーカーとして誕生し、以来80年を超える歴史の中で培った鉄の圧延、表面処理、ラミネート等の当社固有の技術をもとに、アルミや樹脂など鉄以外の製品分野への進出を果たし、有益な製品、サービスをユーザーの皆様提供し続けてまいりました。

本誌創刊号の発刊の辞として、当時の木村幸次郎社長は、「第二次世界大戦によって、日本の産業資本がほとんど喪失され、残されたものは僅かに技術資本だけとなった時代に、日本産業の振興を技術者一体となり立ち上がる趣旨の下、当社内部の相互啓発を行っていくと共に、広く世論に訴え衆知を集めるべく、本誌を発刊するに至った」と述べています。そのころの当社は従業員1500名、工場敷地6万坪を有し、ぶりき、ローモ板、プラスコ板（錫めっきをしないで原板表面に合成樹脂の塗料を焼き付けた商品名）等を主製品とし、年間生産能力5万トンを有しながらも、1次設備合理化計画として、当時最新式の冷間圧延機の導入とともに、焼鈍炉、錫めっき装置等の大規模な設備増強を図っている時代でした。また、下松工場内に研究所が組織され、研究・技術開発と共に、製造技術の向上に努めておりました。本誌には、冷間圧延の潤滑性、冷間圧延材の機械特性・表面欠点あるいはぶりきの特性・評価方法など多岐にわたる論文が掲載されており、技術に対する真摯な取り組みをうかがい知ることが出来ます。

以来72年余り、様々な技術開発の成果を本誌により、各分野の研究者様およびユーザーの皆様へ情報発信ができましたことは、ひとえに皆様のご協力の賜物であり、厚く感謝いたします。

今後、持続可能な開発目標「SDGs」に沿って、環境・エネルギー・資源・食・医療などをキーワードとした研究・技術開発が進んでいくと考えます。時代の変化を敏感にとらえた情報発信をこれからも続けていきたいと考えますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。